



みずみどり

2019年 7月15日 第133号

発行：いたばし水と緑の会事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  
<http://mizumidori2.eco.coocan.jp>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124

## 「ドクダミや真昼の闇の白十字」

ドクダミの白さが目に浮かぶ句でしょうか？ 新井さんが教えてくれました。川端茅舎の句だそうです。

赤塚公園のニリンソウの花が終ってしばらくすると、ニリンソウ自生地の外側にドクダミが満開、真っ白な花はニリンソウと比べて見劣りしません。7月になると花は終り、ハート型の葉ばかりです。

板橋区の公園では、ドクダミは苦情になるから駆除しなければならぬのだそうです。これが今の多数意見だとすれば悲しいですね。確かに好きだという人は多くないと思います。刈った直後や、草の上に座ったりすると独特の臭いがしますが、ただ生えているだけなら臭はないし、じゃまにならなければそのままでもいいように思います。

嫌われる理由は、希少価値がないから？、繁殖力が強いから？。



ドクダミの4枚の白い花は花びらではなく葉が変化したもの、本当の花はこの上に柱のように固まって付いて、おしべとめしべは



あっても受精しないで種をつくります。さらに地下茎でも繁殖します。抜いても抜いても生えてくるのは、地下茎が残っているから。

雑草は深い森に生えることができませんが、園芸種のように大事にされなくても生きていけるし、刈り込まれても発芽するし、ちょっとした隙間に生えてくるし、チャンスがあれば時期を選ばず発芽する、等々の性質によって、人が管理する路傍や公園が適地だそうです（「雑草はなぜそこに生えるのか」（稲垣栄洋著）」の受け売り）。雑草をそのままにしておくとヤブになってしまうので、根絶しようと思わず、そこそこ付き合っていけばよいのでしょう。草のない地面は夏暑い。緑のカーテンをつくらなくても雑草はいつも気温を下げてくれるし、生き物のすみ場所になり、雨を保水し、土砂の流出を抑えてくれます。

ドクダミは10の効能があるとされ、十葉とも言われた民間薬で、私は子どもの頃はよく飲まされました。庭に生えていたのでお茶の代用だったのでしょう。もう少し寛大なおつきあいを願いたいものです（坂本郁子）。

## オタマジャクシその後

赤塚とんぼ池にたくさんいたヒキガエルのオタマジャクシはカエルになる前にほとんどいなくなりました。まず広くて深い場所のオタマジャクシが、カルガモが来るといなくなりました。オタマジャクシのごく一部をカルガモがアプローチしにくいヒタヒタの水辺に移しました。

5月中旬、水温が上昇してザリガニの活動が活発になりました。オタマジャクシはさまざまな生き物に食べられ、数が減っていき、池のなかで最期の1匹を見たのは、5月25日でした。

6月2日プラスチックのコンテナに保護したオタマジャクシを確認しました。全部で20匹ほど。カエルになる寸前のものが2匹いましたが、足も出ていないオタマジャクシと後ろ足が少し出ただけの個体が多いでした。同じ時に生まれ同じ環境で育っているはずなのに成長はいろいろです。



オタマジャクシはエラ呼吸ですが、カエルは肺呼吸です。足が出て、尾がとれると陸に上がって肺呼吸になります。自然の営みとは言え複雑で大変な切り替えですね。人間の赤ちゃんもおぎゃーと生まれて肺呼吸になります。これも大変なことです。オタマジャクシも蛙に変身すると上陸し、生きた生き物を食べます。1cmほどの小さなカエルが自然の中で生きた生き物を食べて生きるのも大変ですが、飼育するのはもっと大変です。

プラスチックのコンテナのオタマジャクシにはときどき餌を入れたりしましたが、底に空けた穴から侵入した小さいザリガニが10匹ほどいたので、エサも横取りされたでしょうね。このような環境で、どのようなタイミングで上陸させるのかも難題で、これ以降は自然にまかせるしかないと思い実験を終了し、オタマジャクシをやや深い棚田4に放しました。オタマジャクシはしばらくばらばらで泳いでいましたが、やがて見えなくなりました。

山田さんが預かったオタマジャクシは、足が出てきたので50匹くらいずつ2回に分けて池に放しました。カエルになるにはまだ早い時期ですが、どこかに生きているかもしれません。

猪鼻さんがスイレン鉢で預かったオタマジャクシも少しずつ減ってきて、5月25日にはまだいましたが、5月29日に見たら豆ガエル1匹のみで、オタマジャクシはいなくなっていた。その後（7月12日現在）庭の草取り作業中に見つけた豆ガエルを含め全部で7匹（写真は6匹）を庭のコンポスト内に隔離し、7月14日とんぼ池に戻しました。



板橋のまちなかで見られるカエルはヒキガエルですが（アマガエルもいる）、光が丘公園に隣接するハンノキ緑地にはアカガエルが産卵する湧き水の池がありました。湧き水は涸れ、服部さんが撮ったアカガエルの卵の写真があるだけです（アカガエルの卵2006年3月服部仁美さん撮影）。

地元の宮澤さんのよると、ハンノキ緑地はときどき水が湧き出るときもあるそうですが、湧き水は涸れ、たまり水にヒキガエルやアカガエルが産卵することもあったそうです。卵を清水山の森の鳥楽の池に放したこともありましたが、すぐにいなくなったそうです。



## 安全で自然豊かな崖線樹林地を未来に引き継ごう

エコポリスセンターの環境ゼミナールで、こんなむずかしいテーマの勉強会を開きました。第1回（6月21日（金））講師は埼玉県生態系保護協会の高野徹さん。参加者は17名（公園課職員3名）。

樹林地？ピンとこないですね。桜などが咲いていると注目しますが、ただの木だったら気にとめません。樹林地を注目することから始めたいと思いました。

まず植生のお話。板橋区についていえば温暖湿潤な風土に合った植物が地表面を覆い、自然状態では常緑樹の森になります。火山などで裸地になった状態から、まず生えてくる地衣類→ススキなどの草本→疎林になり→安定した極相林（常緑のシラカシやスダジイ）になります。落葉等をミミズ、トビムシ、ダンゴムシなどが分解して土壌ができますが、厚さ1cmの土ができるのに100年～数百年かかるそうです。

雑木林は、最低500㎡以上を伐採し、それを順繰りに伐採して、15年～20年後にまた伐採するという周期で、木や落葉を利用してきた農用林で、所沢などでは今でも利用されています。昔の雑木林は利用に重きがおかれていましたが、今は生物多様性を守る場所として重視されています。使われなくなった雑木林は木が大きくなり、樹皮が厚くなり産卵できなくなるためシロスジカミキリ（雑木林のような若い樹林地を好む）も減ってしまったそうです。

もし、住宅がなくなって、そこに自然が戻るとしたら、どんな植生になるかというお話もありました（潜在自然植生）。土があればOKというわけではなく、キノコなどの菌根菌が木と共生していて、栄養素のやりとりをしており、共生菌がない土に木を移植しても健康に育たないそうです。手っ取り早く3mの木を移植するより、30cmの苗を植えた方が早くよく育つと宮脇昭先生も言われるそうです。

講義後、日暮台公園に移動、ここは板橋区の公園の中で自然が残された崖線樹林地の公園です。まず草刈りされツルツルの地面を指で押して「触ってみるまでもなく、表土がなくなっています。縁に粗朶などを置いて落葉や土が溜まるようにしないと」。

さて公園面積の1/3ほどが柵に囲まれた斜面林ですが、2017年秋に高木約10本を伐採、2018年3月まで林内は除草されましたが、それ以降、斜面林については草刈りを中止しても



らいました。まず斜面林を上から見ました。大事にされていない常緑のシロダモは、もともとここに生えていた木です。イヌザクラの切り株から芽が出ていました。今度は、斜面下からカギがかかっている斜面林に入り林縁から観察。木を切って明るくなった林縁はみごとに木（アカメガシワやクサギ）や下草が茂っていました。「木を切って明るくなった場所にまず生える木をパイオニア植物と言います。これらは他の木が大きくなると消えてしまいます」。



コナラの実生が40cmほどに育ち、その下側にササがびっしりと生えて、表土（雨）の流出はかなりここでストップできます。半年前ははげ山だったのがウソみたい。木が切られて日が差し込むようになり、下草を刈らなくなったためです。

写真左はササが生えてきた禿げ山。根が浮き出た木の根っこに注目してください。土が流出しなければ、この根っこの上まで土があったということです。

樹林地の中にマテバシイが1本生えています。

「この木は九州以南（南西諸島）の木です。ここにあるということは植えたか、公園広場にある木の種が芽生えたのでしょうか」。私も以前からこのマテバシイが気になっていました。強い木で度々切られても切り口から芽を出して再生しています。

高野さんは、ササ等が茂っている林縁をどうするかは、様子を見ながら検討するとよい、ということでした。

## 安全で自然豊かな崖線樹林地を未来へ引き継ごう (第2回)

翌週の6月28日（金）、参加者は8名、講師は埼玉県生態系保護協会事務局長の堂本泰章さん。日暮台公園に集合。南部公園事務所所長の大脇さんが、管理（苦情対応）について説明をされた。めいめいがじっくり観察。講師の日暮台公園についての感想。まちなかにあり、それほど大きくないが、よい樹林地であること、大事に育てていくとよいと話されました。

埼玉県生態系保護協会は、埼玉県の「埼玉県自然学習センター・北本自然観察公園」（32.9ha）の指定管理者として、地域の自然の保全と自然教育によって自然環境に理解のある人材を養成されています。また松戸市のまちなかにある屋敷林の寄贈を受け、「関さんの森」として子ども達の自然教育の場として運営されています。堂本さんは、事務局長として近隣関係にもあたられ、そういうご苦労があるようです。苦情者の言いなりになっては、自然は保全できないですね。

エコポリスセンターに移って、参加者9名（区民参加者だけ）で「よいところ」、「課題」、「気になること」、「自分が出来ること」を書きだしました。

### よいところ

- ・大きな木が残っている・落葉樹の大木がある・森に明暗がある・シュロがない・キンラン、キツネノカミソリ、ヤマユリが咲く・自然が残っている
- ・適度に管理されている・樹木・下草が生えて



生き物がすみやすい場所である・緑に囲まれて日常から離れた雰囲気・斜面なので木の上部を横から観察できる

### 課題

- ・表土が流れて根が出ている・土の流出防止、土が流出しない工夫をしたい・雑草（下草）だけのコーナーがあってもよい・なるべく昔からある木を植えてほしい・大木の枝の上部が家にかかっている・板橋の崖線公園はみな同じで特徴がない・できる限り緑を残すためにいかに理解を得るか・木を切りすぎないようにしてほしい・（クズなどに覆われて）昨年まであったヤマユリが見られなくなった・大きな木が多くて触れられる木が限られる

### 気になること

- ・近所の人はどう思っているのだろうか・表土は回復するのか・階段が多いが土が掘れて杭が出ていて危険、土盛りを・流出した土砂の行方と処理・人工植栽のツツジの手入れが出来ていない・ネザサはあったほうがよいのか

### 自分ができること

- ・日暮台公園に歩を運ぶこと・関心を持って日常的に見る・関心を持って情報発信すること・クズ刈り手伝いたい（2）・下草刈り手伝いたい・定点観察を続けたい・土が固くなっているところをやわらかくしたい。

参加者は日暮台公園を好意的に感じており、崖線樹林を見守り、クズ刈りなど手伝いたいこと、課題として表土の流出が多くあげられていました。近所の人はどう思っているのかも気になります。第2回の意見交換には行政職員は参加していただけませんでした。第1回は崖線樹林地の勉強会には3人参加され一歩前進でした。

## 勉強会その後

崖線樹林地を安全で自然豊かなものにしていくために、2018年3月に南部公園事務所河島所長と話し合いをし、公園課として斜面林内と緩斜面の樹林地の下刈りをしないと約束していただきました。そして日暮台公園の自然を残しながら安全な公園として維持していくにはどうしたらよいかを考えるために、専門家を講師に迎え2回のゼミナールを開催しました。公園課の職員がワークショップに参加できなかったのは残念ですが、これからも話し合い、連携を取りながら自然と共存できる公園を目指したいと思います。



7月4日、早速公園の草刈りについて意見交換で、美観と自然の折り合いの大変さを感じました。クズ取りは区民と一緒にやるという提案を伝えていたのですが、公園灯（写真左）に巻き付いたクズの除去は緊急課題、ぐずぐずしては行かないと思われたのか、6日には公園灯だけでな

く、繁茂していた一角が除去された後でした。

クズと一緒に、手を入れないと約束された斜面林内に生えていたイヌシデ、エノキ、エゴノキなどの若い木10本程も一緒に伐採されてがっかりしました。

公園課にとって、クズを除去するのが目的でした。そうではなくて、若い木を守るために、若い木の成長を妨げるクズを除去するのです。そういう管理をしてほしい。



### 日暮台公園に雑木林が生まれる！！

日暮台公園に小さな雑木林がうまれつつあるようです。雑木林では、約15年ごとに木を切って新しく生えてきた木を育てます。ある程度大きくなるまで、若い木の成長を妨げるクズなどを除去するという雑木林の手入れをします。小さくてもここに雑木林が育つという見方をすれば、見えるものが違います。

クズと一緒に刈られた木は、雑木林になる木でした。切られたけれど、芽を吹いてくると思うので、木にリボンをつけて今後を観察します。また、一昨年切られた大木の2本から新しい芽が出てきています（萌芽更新）。クズの茎を切ったり、木にかぶさっているクズの葉を剥ぎ取ったりしながら、若い木を見守っていきたい。雑木林の再生を応援してください（坂本郁子）。

## バッタ広場の生き物たち

7月9日（火）高島第5小学校3年生1クラス（18人）の生き物探検の授業がありました。センスオブアース主催、水と緑の会から坂本、瀬田、山田がお手伝いしました。

草むらには、オンブバッタ、ショウリョウバッタの子ども、ここで生まれたばかりのキリギリスの赤ちゃんがいっぱい、近くにいた3~4cmのカマキリの子どもはこれらの獲物をねらっていた様子。小さいジョロウグモも巣を張っていました。大きなクモ（コガネグモ）、クワカミキリ、クズの葉には小さなコフキゾウムシ。

モンシロチョウ、ニイニイゼミの幼虫、モグラ塚、等々。

空にはトンボが多数飛んでいました。子ども達も私も空に向かって指を立てて、トンボが止まるのを待ちましたが、長時間（私たちがバッタ広場にいる間中）どこにも止まらずに空を飛んでいました。こういう時間ってすてき。トンボは空を飛べていいなあ、と言った子どもがいました。最期に山田さんが子ども達に「鳥の声や風の音を聞いて自然の中にいることを感じてほしい」と話されました。同感ですね。



# 活動のお知らせ

運営委員会：8月24日(土) 12:30~13:30

9月28日(土) 12:30~13:30

作業・観察会の後に報告や活動内容などを相談します(ラーメンしらかば)。

連絡先；下記事務局または坂本(090-4618-1295)

●会報の発送は奇数月。お手伝いできる方はよろしく

9月21日(土)の予定

活動の問い合わせ等は事務局 瀬田(3969-7124)まで

## 1 赤塚ピオトープ(赤塚トンボ池、バッタ広場)の手入れ

7月27日(土) 10:00~11:30 バッタ広場の手入れ

8月24日(土) 10:00~11:30 バッタ広場の手入れ

集合は赤塚トンボ池前(板橋区立美術館そば)(予定を変更する場合があります)

雨天の場合は中止または延期します。連絡先:事務局または坂本(090-4618-1295)

## 2 赤塚城址自然観察会

どなたでも参加できます。子どもさんも一緒にどうぞ。でも生きものを持って帰らないでね。小雨でも実施。連絡先:事務局または坂本(090-4618-1295)

8月11日(日) 10:00~11:30

9月8日(日) 10:00~11:30

集合場所:板橋美術館そばの赤塚トンボ池前

参加費:無料(保険には加入しません)もってくるもの:あれば双眼鏡、虫眼鏡、

## 3 日暮台公園樹林地の観察

8月3日(土) 10:00~11:30

9月7日(土) 10:00~11:30

日暮台公園前集合

連絡先:事務局または坂本(090-4618-1295)

### ●ピオトープボランティア大歓迎

当会は、自然と共存するまちづくりをテーマに、生き物のすめる水辺(赤塚トンボ池)や草地(赤塚公園バッタ広場)などの観察と手入れ作業、自然樹林地の定点調査などを行っています。作業や観察会で身近な自然を発見するのが楽しいです。

●会員になってくださると板橋の自然情報を中心とした会報「みずみどり」(隔月発行)お送りします(年会費2000円:振込先は表紙に記載)。